お詫び

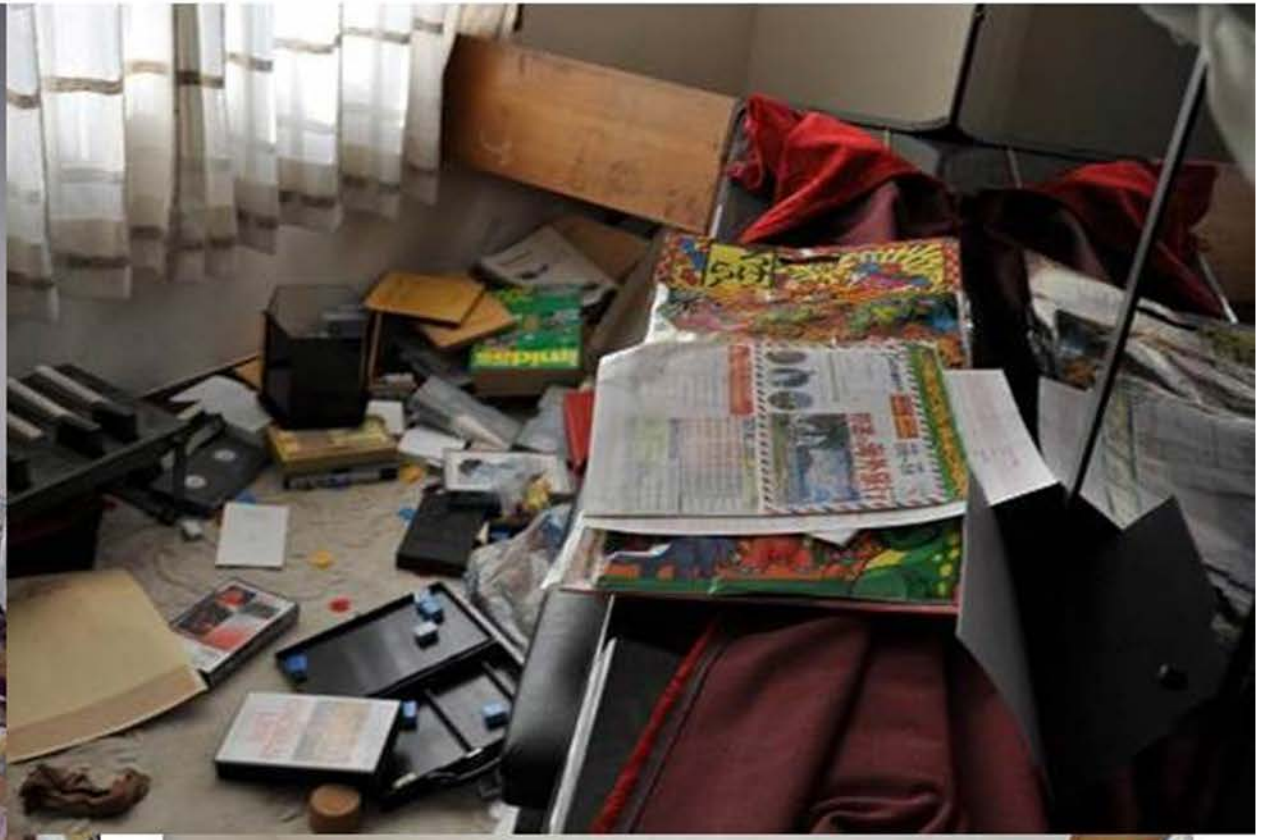
講演の依頼を受けましたが現在体調を崩しており
日々通院とリハビリを繰り返しており到底かないません
そんなことでプレゼン資料をお送りしますのでよろしくお願い致します

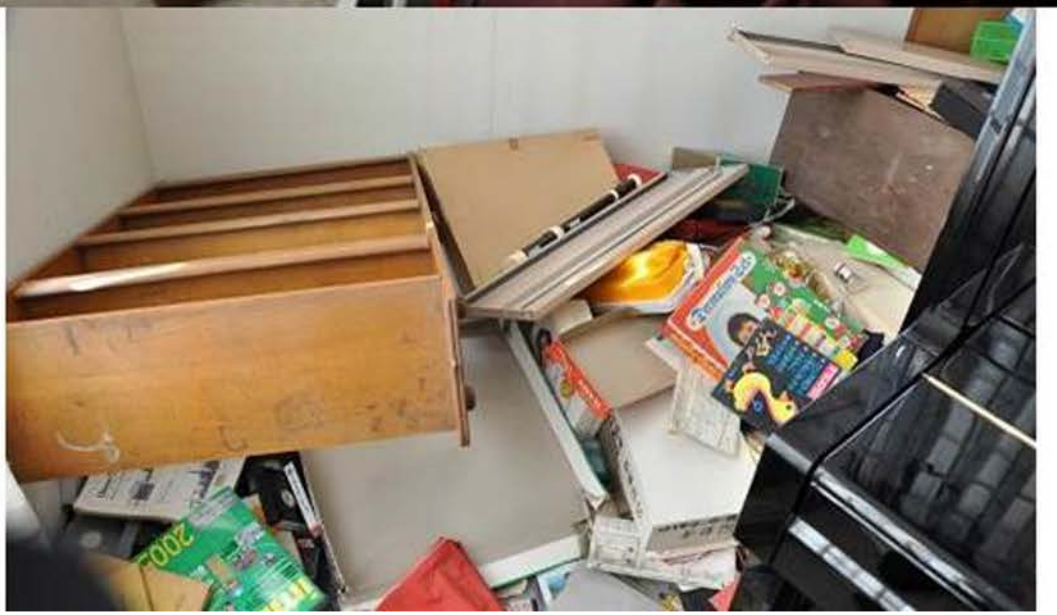
ところが2回目の資料を送ると約束していた2月14日の前夜遅くに
東北大震災の余震が発生し、拙宅の2階の私の部屋も大被害を受け、
一時パソコンも使用不能になってしまいました
そんなことで資料送付も出来なくなってしまいました

幸いパソコンも復旧しましたので修正資料を送れるようになりました

不十分な資料で申し訳ありませんが
少しでも意を汲んで頂ければ幸甚と存じます

仙台住　櫻井史朗





みちのく巡礼

東日本大震災の体験から祈りの道へ

櫻井史朗

櫻井史朗

旅行作家・お遍路研究家。
1943年宮城県東松島市生まれ、仙台市在住。
大学院修了後、民間会社研究員、静岡大学教員、宮城県高等学校教員を経て、
作家活動に入る。
大学教員時代に四国遍路を経験し、その後阪神大震災を契機にその鎮魂から四国遍路を思い立ち、交通機関も併用した遍路、そして2004年には全行程を歩き通して結願を果たす。
これらの経験をもとに
「諸君！お遍路はいいぞ
　四国歩き遍路その魅力と巡り方」
を出版。

河北新報　平成20年(2008年)9月21日(日)

歩き遍路の達人・櫻井史朗さんに聞く

Shiro Sakurai

自分を見つめる四国八十八ヶ所巡り

櫻井史朗

私の四国遍路

1回目：1963年(20歳)　大学生時代
2回目：1976年(33歳)　大学教員時代
3回目：1986年(43歳)　高校教員時代
1995(平成7)年1月17日：阪神淡路大震災
4回目：1995年(52歳)、阪神淡路大震災直後
　家族を亡くして慰霊の遍路をしている
　多くの方々に出会う
　四国歩き遍路は遺族の心を癒す役割を
　果たしていることを実感
5回目：2003年(60歳)
2007年：四国遍路の本出版
2011(平成23)年3月11日：東北大震災
6回目：2012年(68歳)、東北大震災1年後
　孫と

四国霊場第廿一番太龍寺
大龍

諸君！お遍路はいいぞ
四国歩き遍路その魅力と巡り方

櫻井史朗著

第１章　四国遍路の魅力にふれて
　　ー出会いとふれあいの旅
（心温まるお接待と女将さん・・・）
第２章　発願から出発まで
（四国遍路のいわれ・・・）
第３章　お遍路のマナーと身じたく
（お遍路さんのマナー・・・）
第４章　宿の予約と有意義な過ごし方
（宿での有意義な過ごし方・・・）
第５章　歩きの知恵袋
（疲れない上手な歩き方・・・）

紙版　：現在絶版
電子版：近々出版予定

私のシルクロード遍路

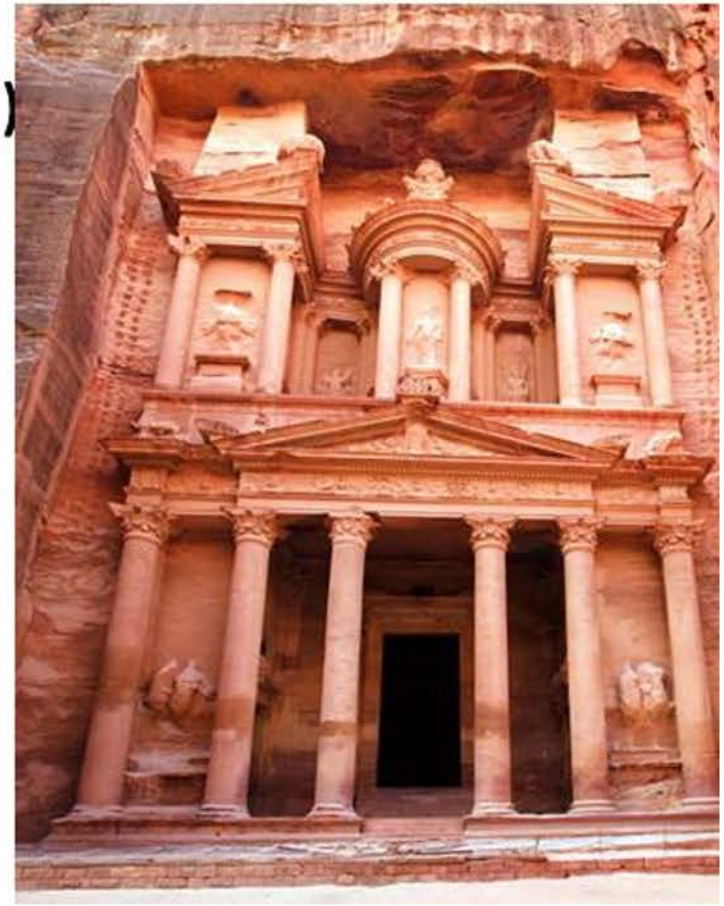
その後、中国からトルコ・イスタンブールまでのシルクロード10ヵ国
2万キロの旅を経験

・1回目：2004年、西安～イスタンブール、主にバス利用(63日間)
　団体旅行（9名）、朝晩は単独行動

・2回目：西安～ローマ、完全ひとり旅(8ヵ月)
　主にヒッチハイク、砂漠はラクダ、
　草原地帯は馬で移動

・その他：シルクロード地域内
　1～3ヵ国の旅10回程度

○圧巻だったのはペトラ遺跡 ➡
○予想外外によかったのはイラン
　ペルセポリス
　イスファファン（イマーム広場）

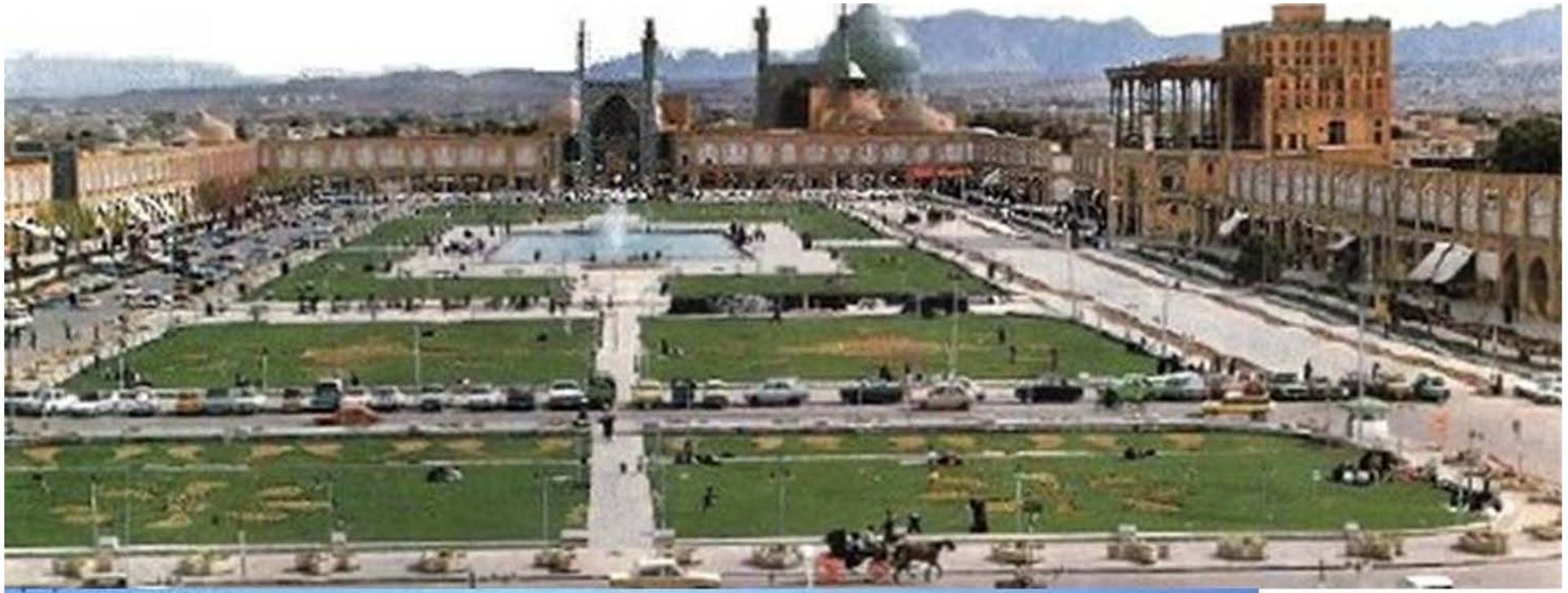


ペトラ遺跡
(人間の大きさに注目)
ヨルダン

ペトラ遺跡
(人間の大きさに注目)

ペルセポリス
イラン

ペルセポリス

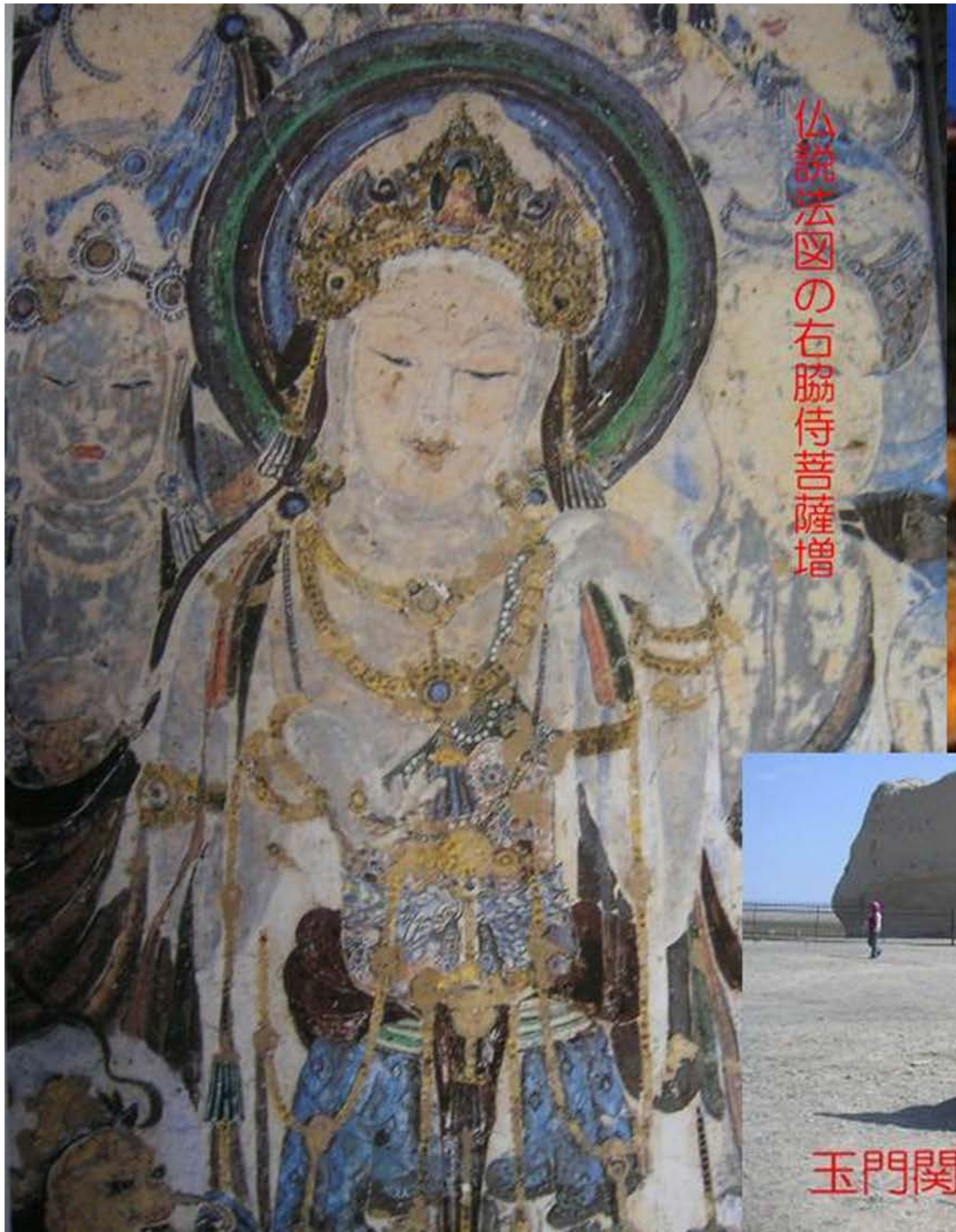


イスファハーン
イマーム広場

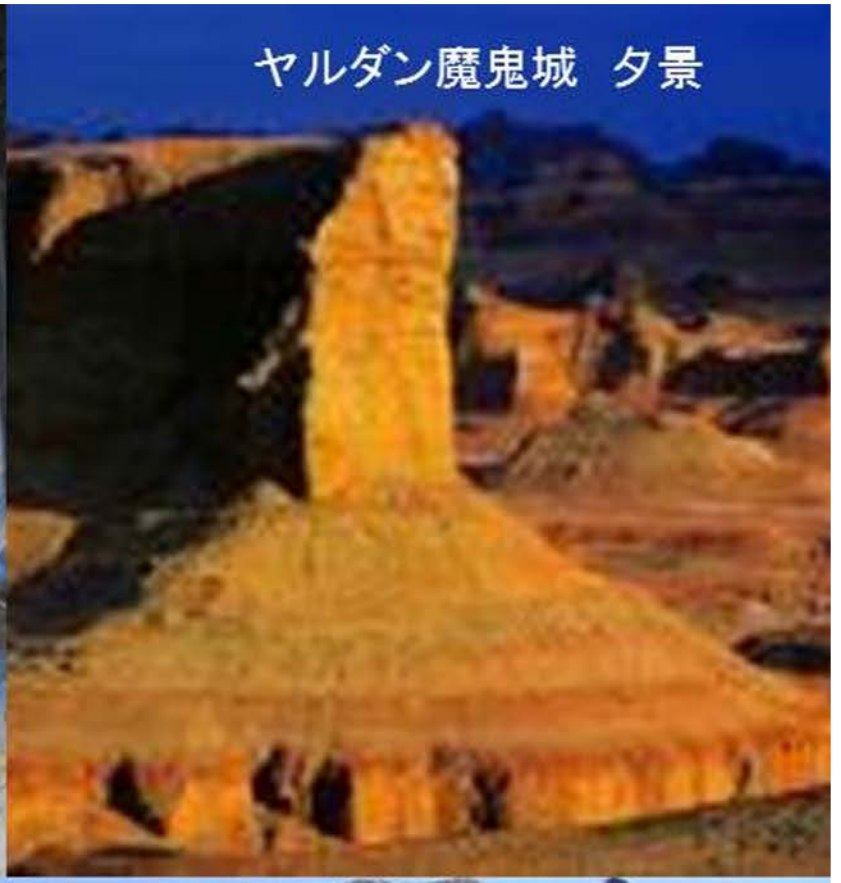
ナグシェロスタム

トルコ
ヤズルカヤ遺跡

メルブの遺跡（ウズベキスタン）

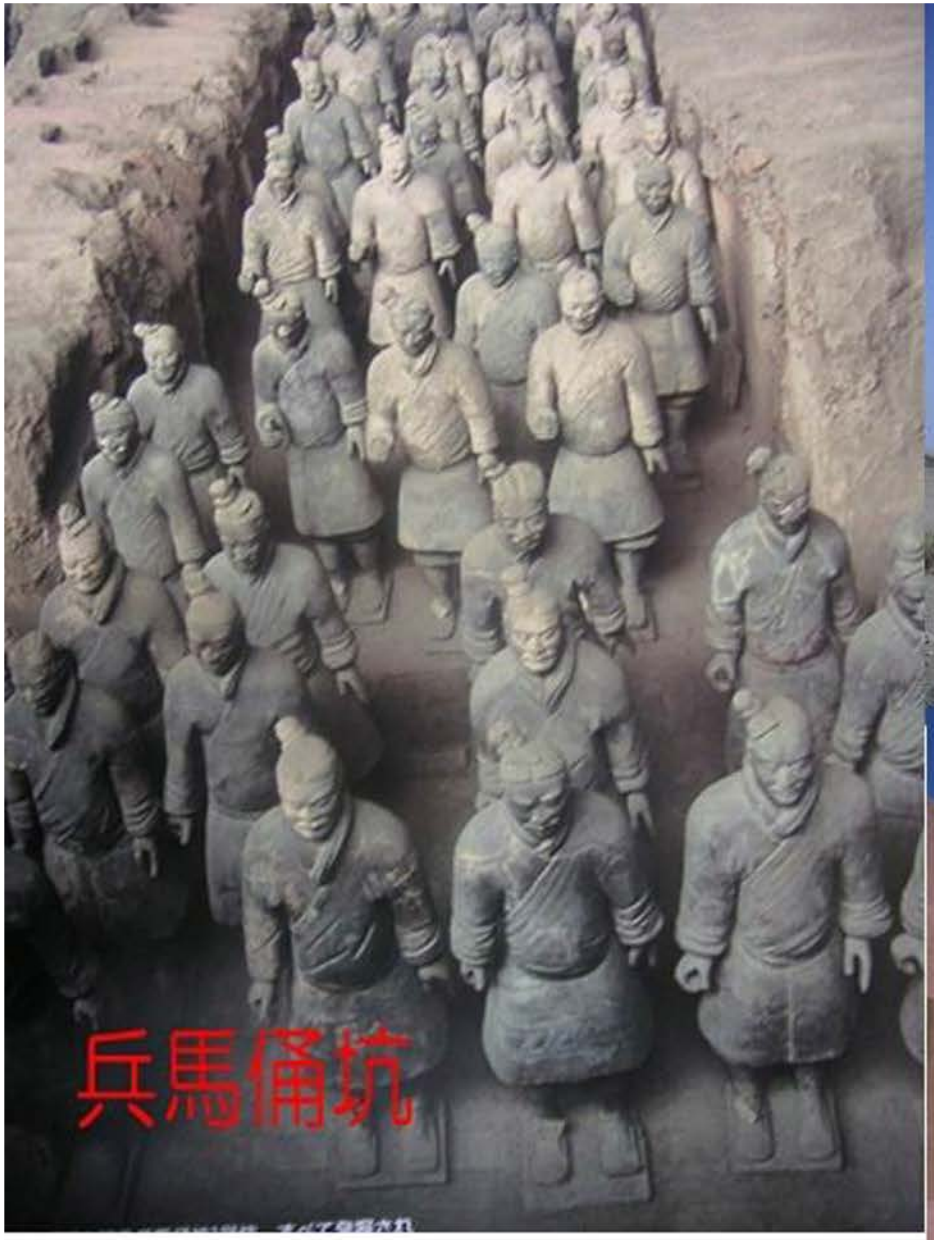


仏説法図の右脇侍菩薩増



ヤルダン魔鬼城　夕景

玉門関


兵馬俑坑

漢代の長城

三蔵法師が長期滞在した
高昌故城

東日本大震災

2011年3月11日
東日本大震災当日
山歩きの会のメンバー12名と
牡鹿半島の島·金華山で
地震·津波に遭遇
九死に一生を得る

（詳細次頁以降）

震源から最短距離

金華山

牡鹿半島と金華山

14:46 大地震発生！

地震に遭遇した金華山桟橋の待合所

地震発生

.即座にテーブルの下に隠れる

.地鳴り、激しい揺れ

.轟音、破壊音、ガラスの割れる音

.天井が落下、建物崩壊の危険を感じる

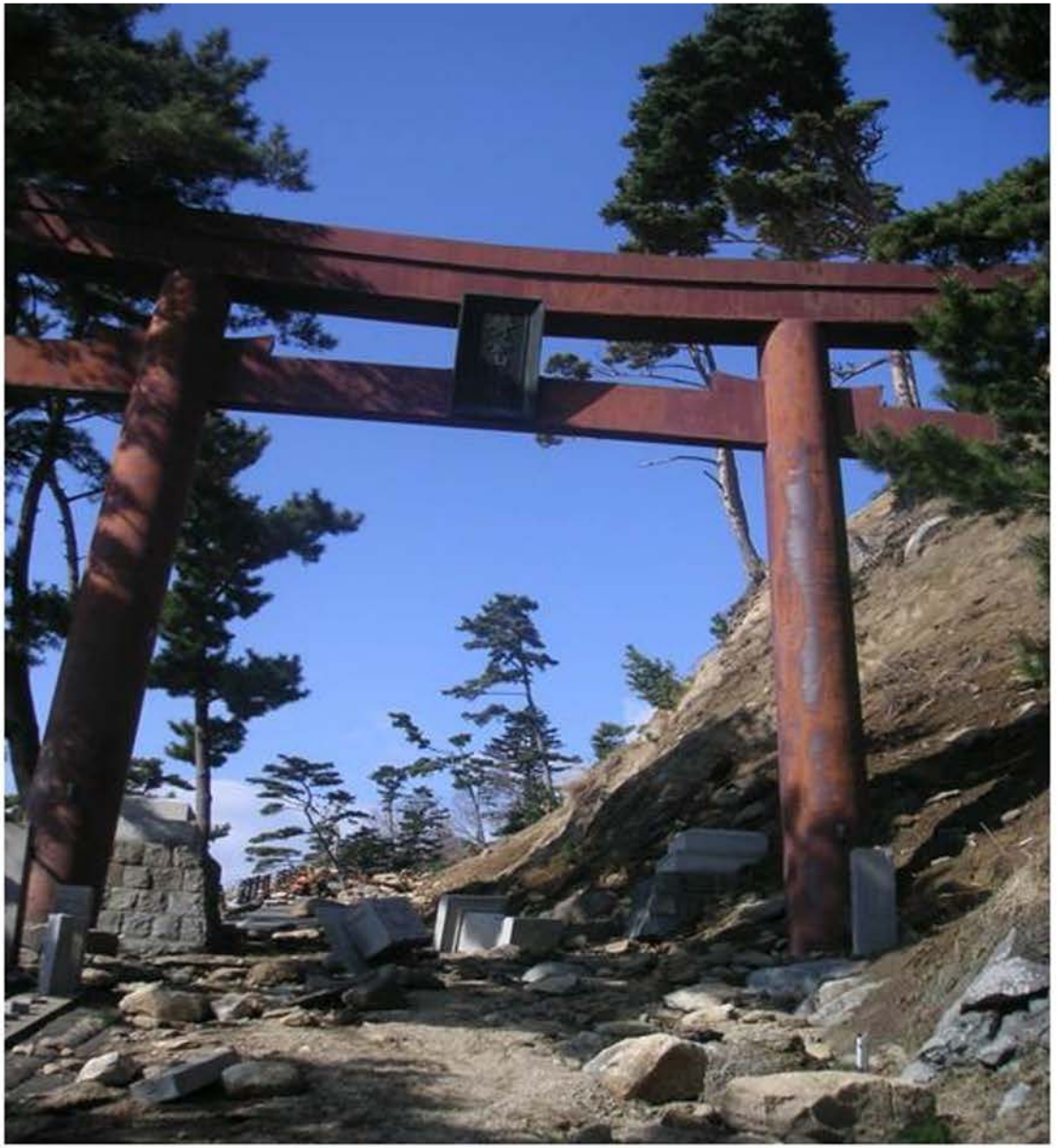
.大掲額が身を守るテーブルに落下

.死の恐怖

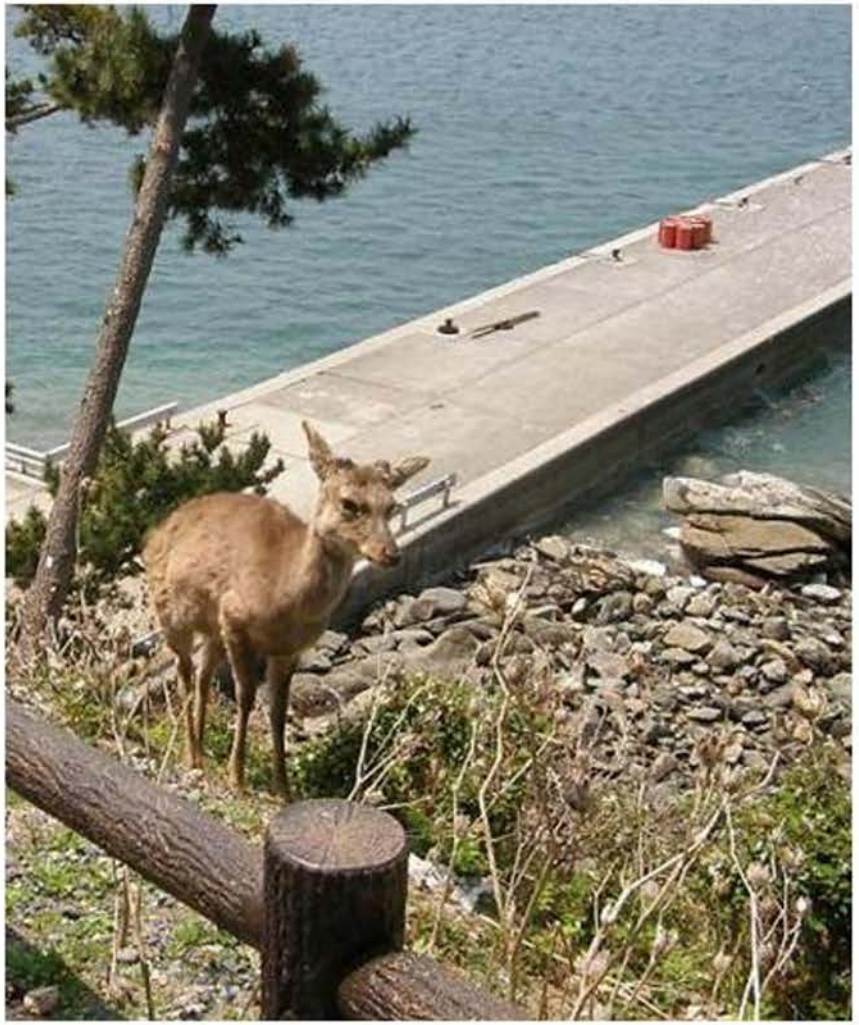
.必死の屋外脱出

.1度目の命拾い（冷静な対処が大事）

14:49
船が仲間2人を乗せて去ってゆく



14:49　がけ崩れ



金華山には鹿が多い

14:50　中腹にいた鹿がさらに上る

14:52　地震弱まる

14:53　水が引いて海底が見える

14:53　津波の避難場所相談

大津波を予想せず

14:54　避難警報!!

6m以上の津波が来ます。

全員高台へ避難して下さい!

防災無線の指示に従うべし

14:56　高台へ避難開始

崖崩れの中を必死に避難

14:46 大地震発生
高台に避難！
15:02

15:04　この写真撮影の直後大岩崩落

私の直前に落下してきた大岩

2度目の命拾い

神に祈るような気持ちで上る

助けながら避難

船が戻り
かける
仲間二人が乗船
一晩沖合で過ごす
15:08

15:12　やっと崖崩れの少ない道へ

15:15 高台到着

15:18 第一波襲来

第一波襲来
待合室・売店棟が水没 15:19

水が引きはじめる　15：29

再び姿を現した待合室と桟橋

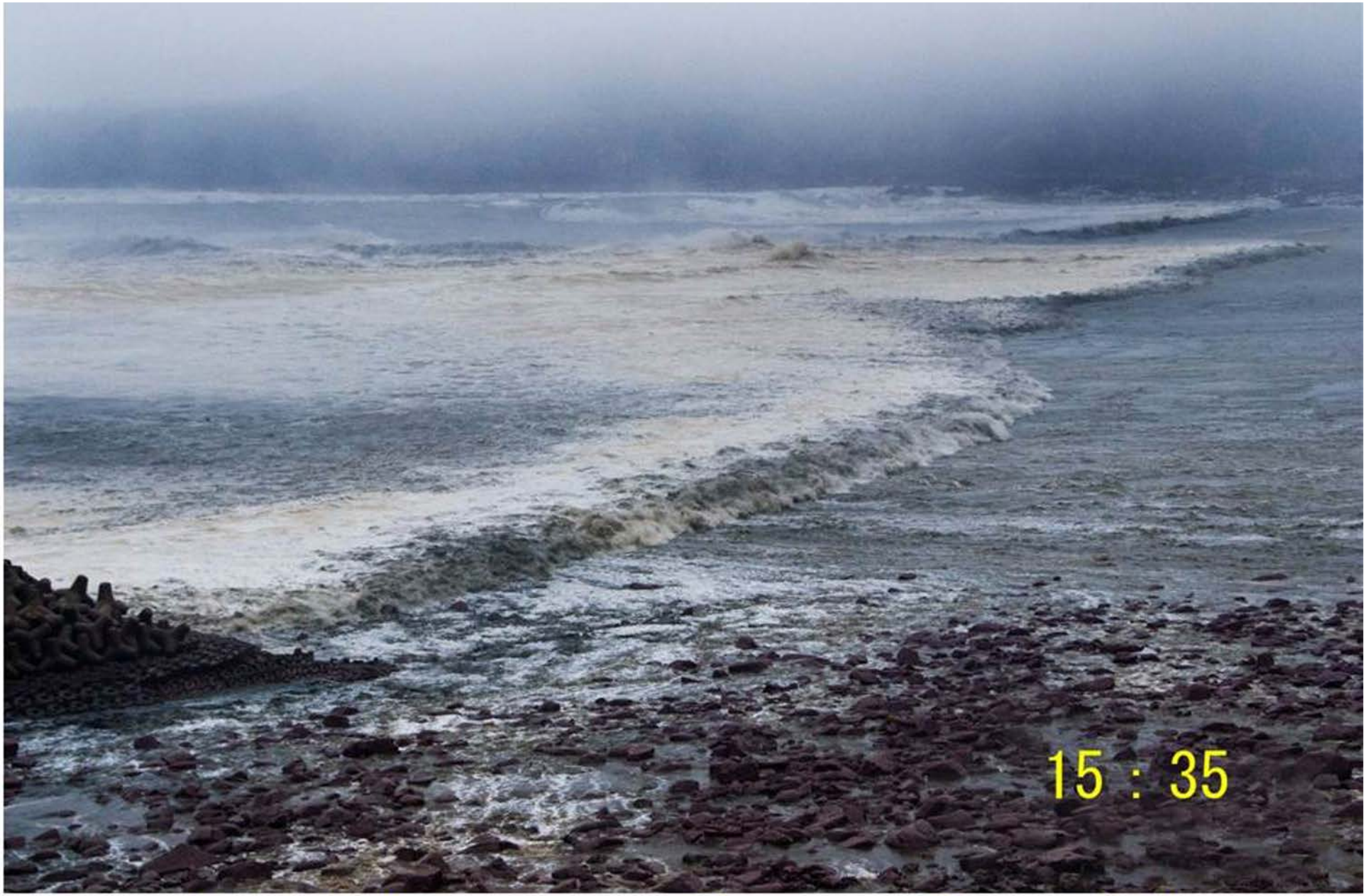
南北両方向に激しい引き潮

激しい引き波　15：30

完全に姿を現した待合室と桟橋

手前が金華山、向いは牡鹿半島

南北から巨大第二波襲来 15:35



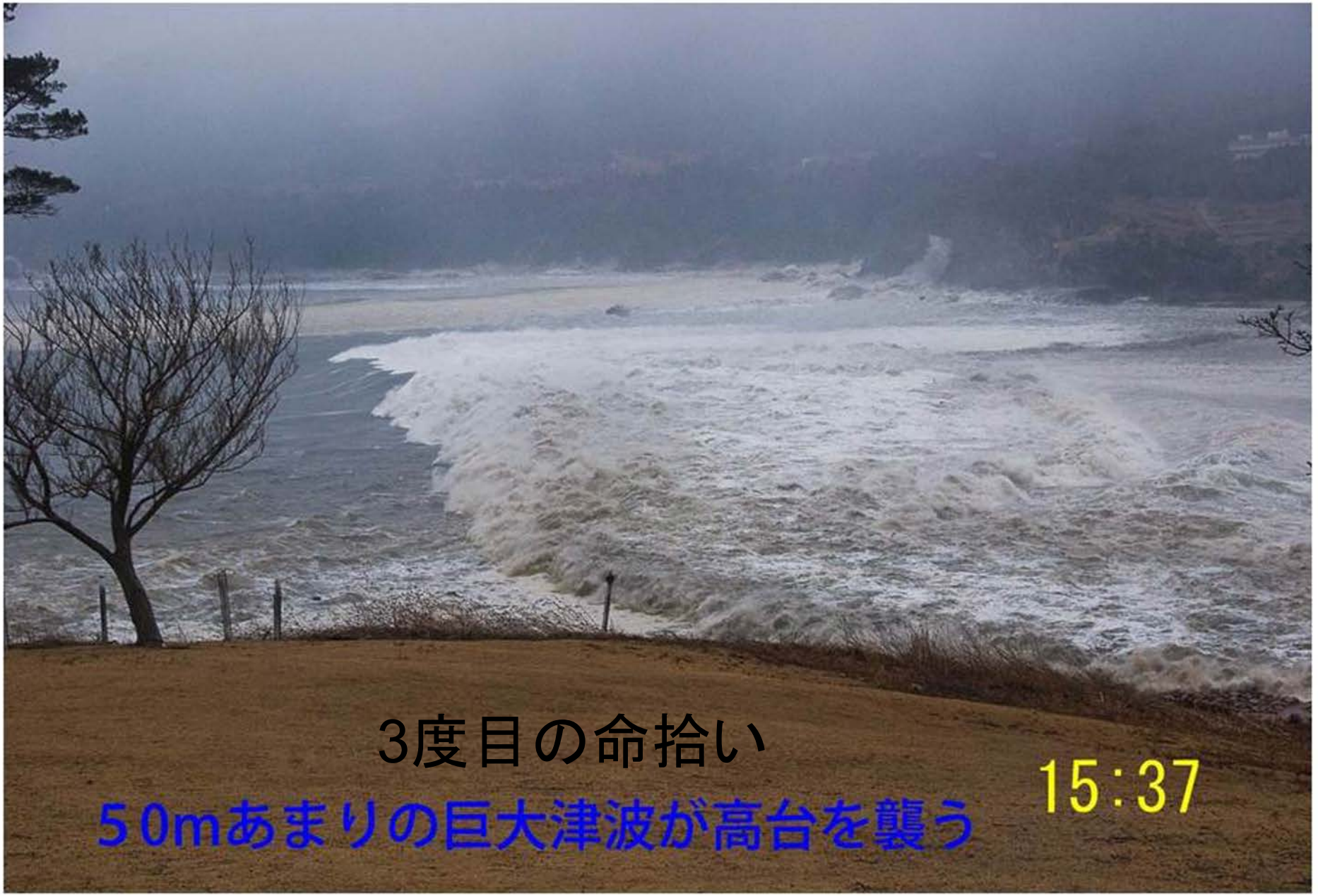
南から押し寄せる20m程の津波

北から30mほどの津波が襲来

巨大津波の激突

激突しながら高さを増す津波

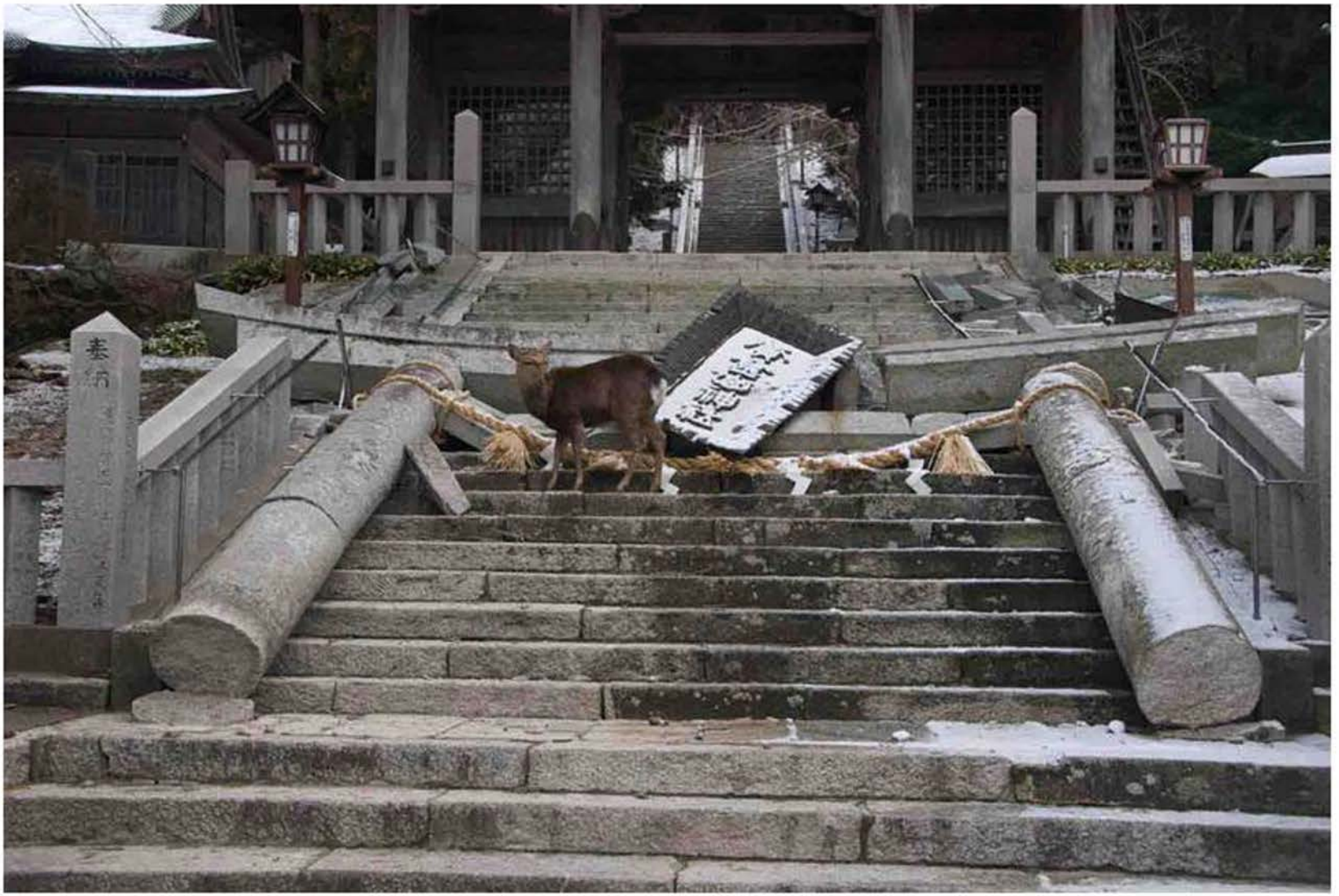
激突して50m程の超巨大津波になる


3度目の命拾い
５０mあまりの巨大津波が高台を襲う
15:37

津波記念碑

「地震が来たら津浪の用心」
「それや来た五本松」

神社へ避難



一夜、黄金山神社にお世話になる

黄金山神社での不安な一夜

- 長期滞在も覚悟
- 暗闇で続く余震
- 先に港を出た友人が気がかり
- 家族との連絡できず

金華山桟橋付近の被害

3月12日　6時～6時20分

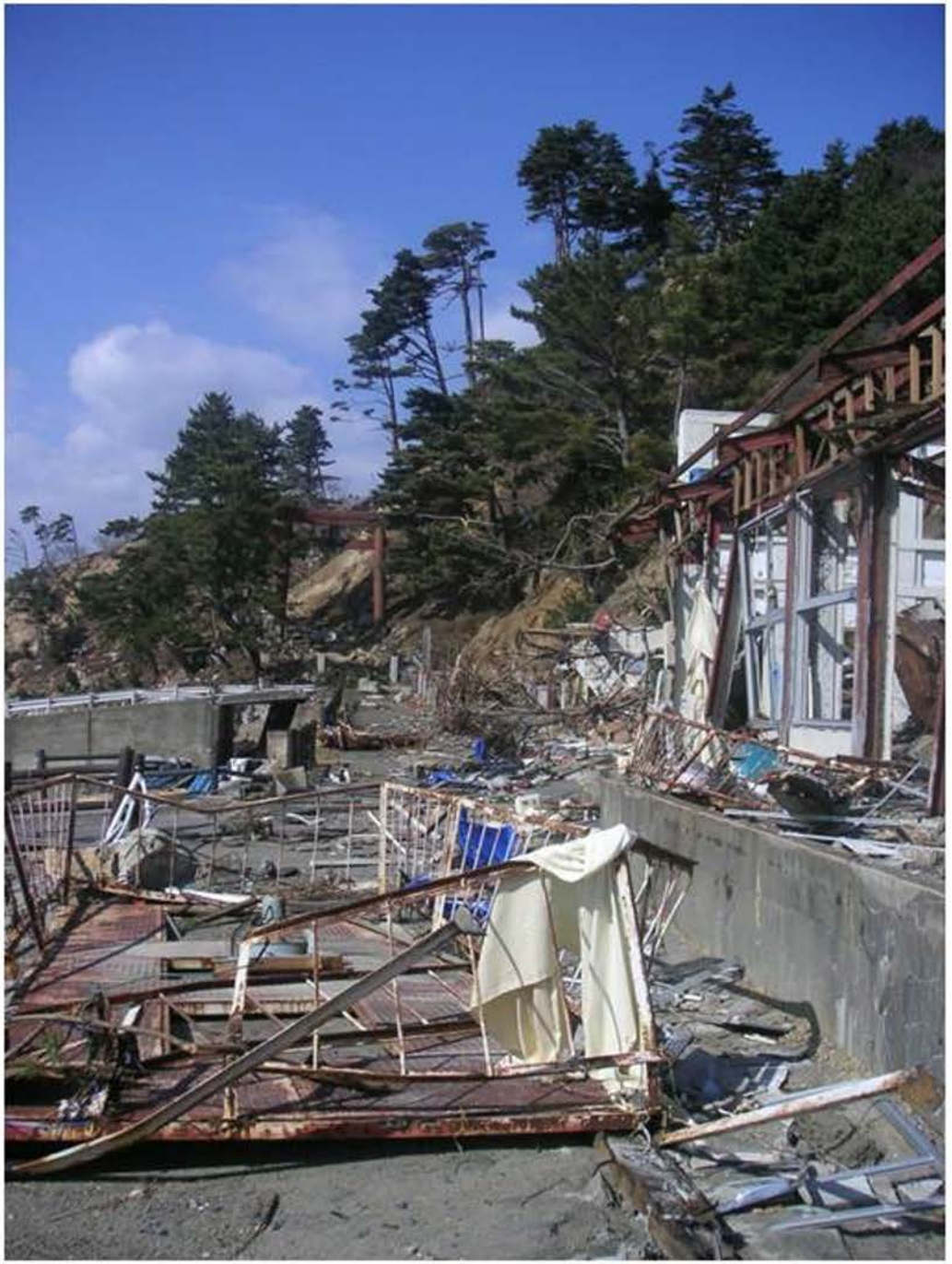
コンクリートと鉄骨だけが残るお土産屋と食堂

食　堂

食堂

待合室

待合室



幸運な救出

牡鹿半島の岸に溜るがれきや船

入港できない船が港の外に停泊

小舟で鮎川に上陸　3月12日16:10

鮎川のシンボル鯨のマスコットの脚は地盤沈下で水没

鮎川港埠頭から街へ向かう

鮎川港埠頭から街へ向かう

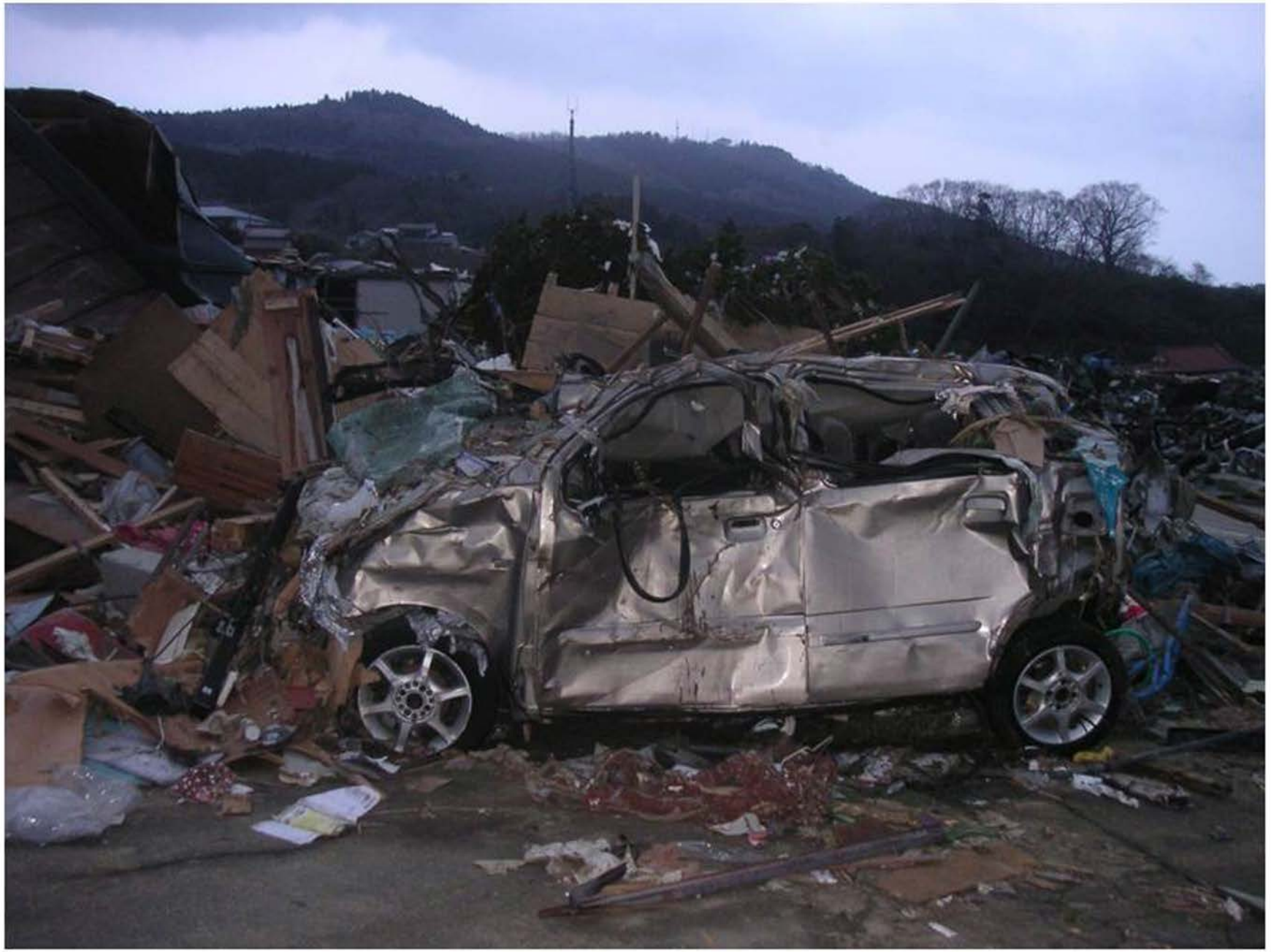
写真撮影に躊躇と罪悪感

自然の恐ろしさを実感

がれきを乗り越えて

避難所に向かう

ぜひ撮ってけさい



ENEOS
Service Room
Pro Pit

石巻市牡鹿総合支所より　16:40

超満員の避難所　(石巻市牡鹿総合支所)

意外に和やかな雰囲気

人々の**絆の強さ**

暮れる鮎川　３月 12 日

孤立無援の牡鹿半島

ボランティアしながら

５日間避難所生活

食事の配給

水の運搬

食料等の分類整理

自販機からの飲み物の回収

米の運搬　30キロのコメ袋

一日目はイスで寝る
毛布は13人に2枚

食事はパン1/3
水は紙コップ1/4

港は水没したまま

復旧の第一歩　　13日　8:05

道が開ける　　13日　10:05

津波警報発令

避難説得

我々が乗ってきた車

自衛隊の救援物資輸送車で石巻へ

16日昼

救援物資補給基地（石巻総合運動公園）

全国から応援の消防車　感謝！

家族に初めて連絡取れる

JR仙石線
ウィキペディアより

石巻　被災前

姉の家は流失

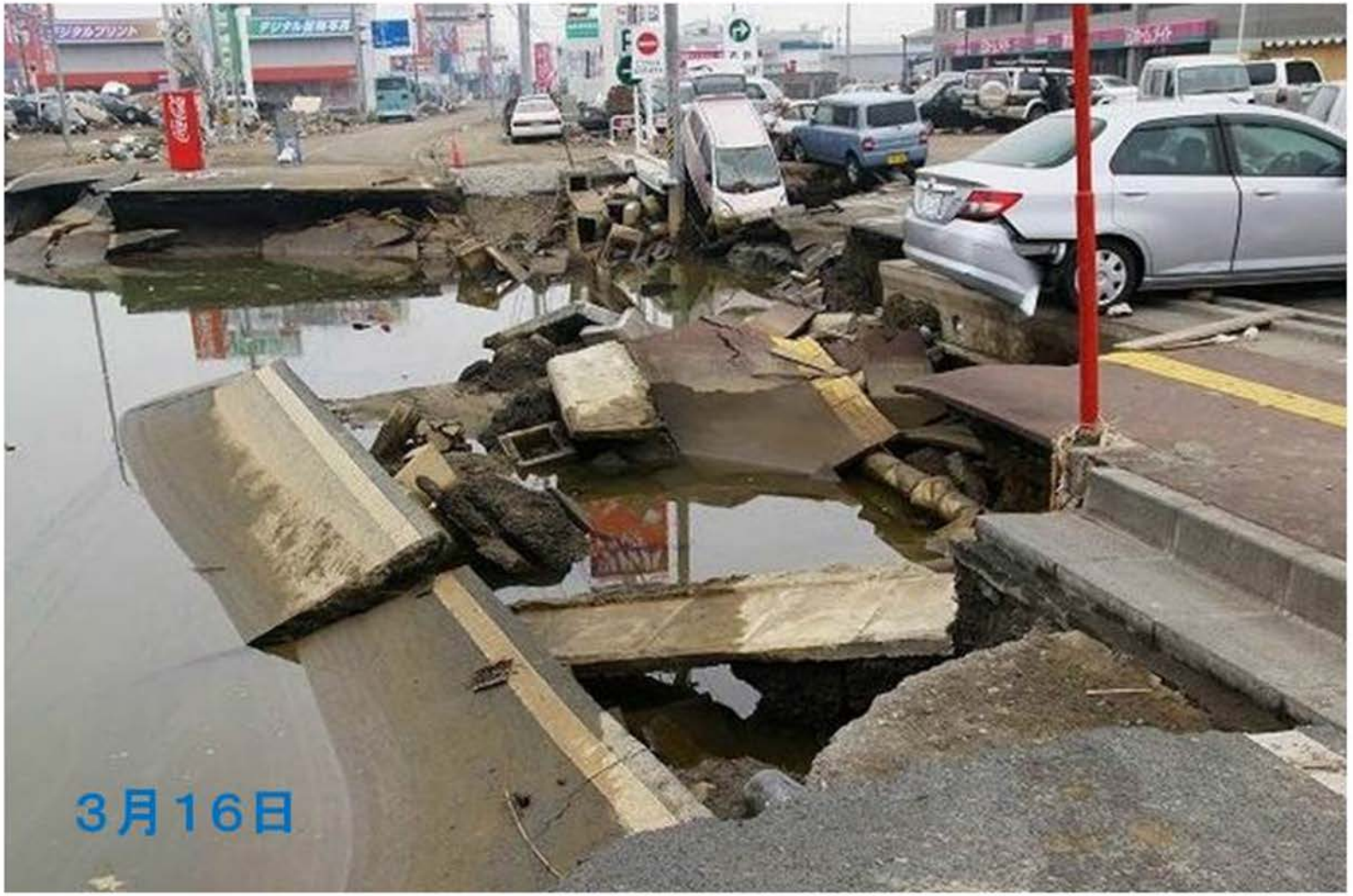
避難所でもらった
一生で一番おいし
かったメロンパン

石巻　被災後

石巻市南浜方面　　3月16日

石巻

3月16日



石巻　　道路陥没

石巻

3月16日

石巻

3月16日

石巻から東松島市矢本まで歩く

東松島市矢本

東松島市矢本
3月16日

東松島市矢本
3月16日

東松島市矢本
3月16日

東松島市から仙台まで50キロ歩く

東松島市から仙台まで50キロ歩く

東松島市矢本
3月17日

子供のころの遊び場　思わず号泣

自衛隊の遺体捜索

東松島市野蒜東名運河

東松島市矢本
3月16日

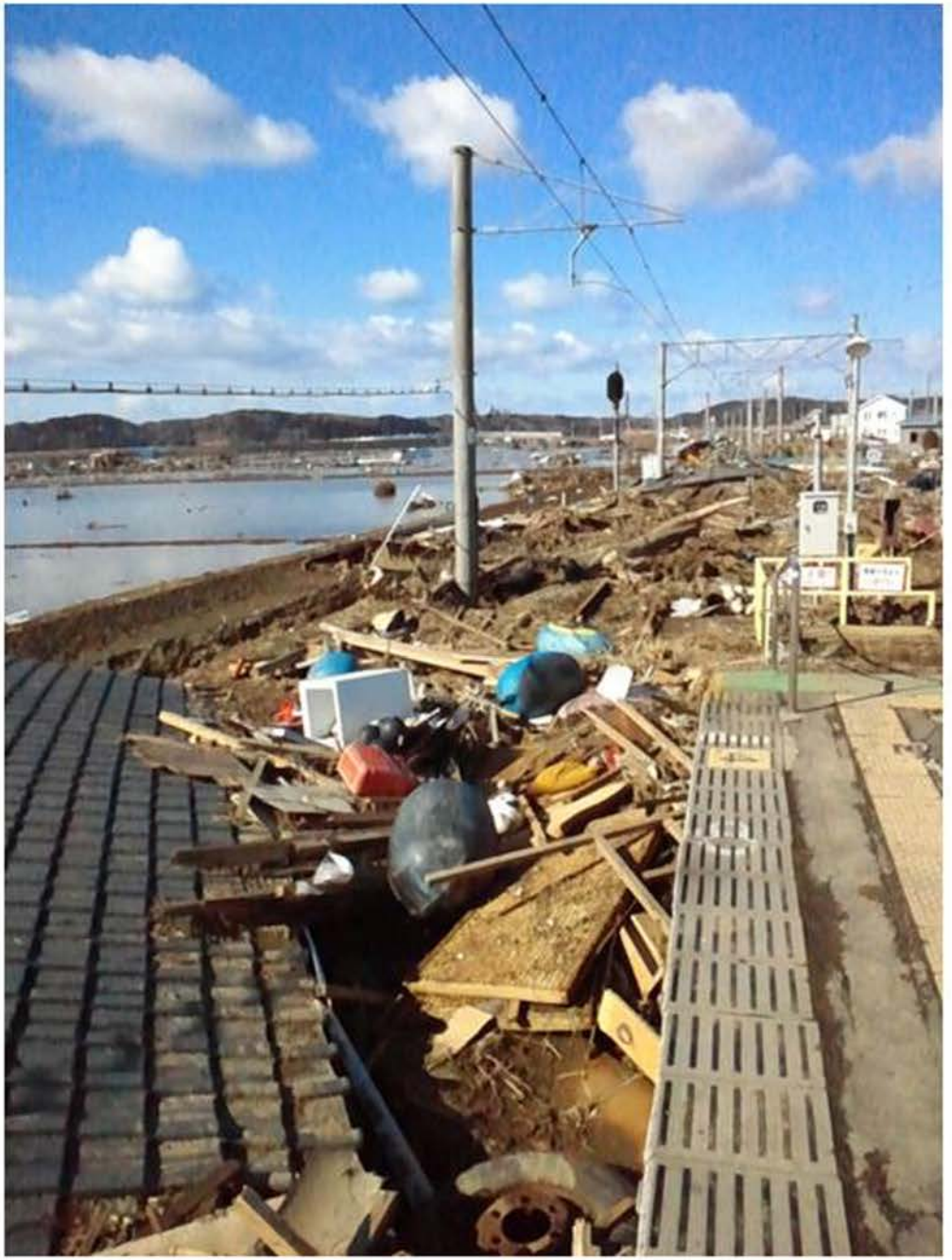
東松島市野蒜東名運河

地盤沈下で海に
なった東名地区

JR仙石線の惨状

矢本駅～小野駅間　3月17日

小野駅



野蒜駅

野蒜駅～東名駅　3月17日

野蒜駅～東名駅　3月17日

野蒜駅～東名駅
3月17日

JR仙石線路線図

ウィキペディアより

新東名駅

ウィキペディアより

新野蒜駅

ｳｨｷﾍﾟﾃﾞｨｱより

金華山黄金山神社の鹿

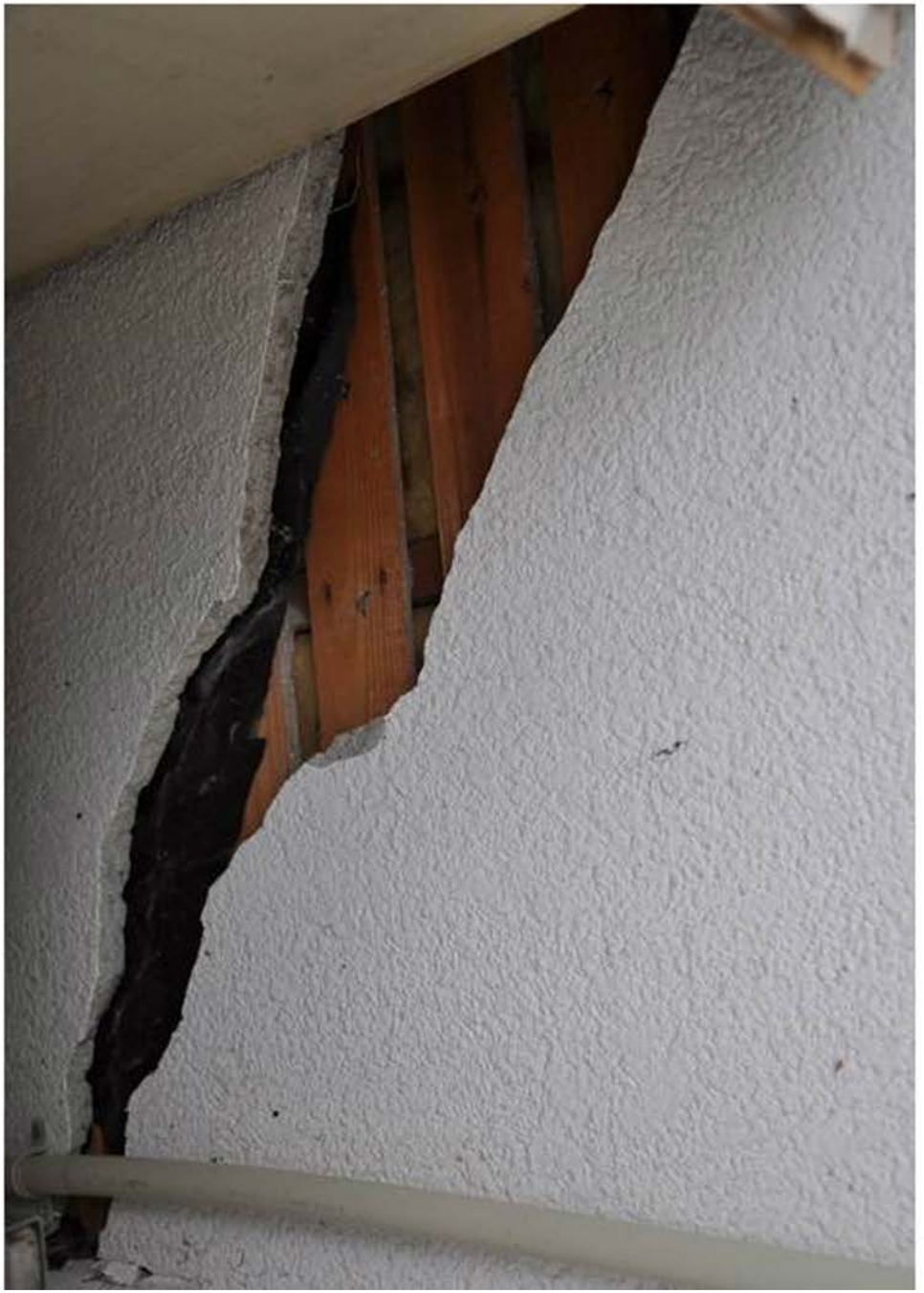
MATCHAより

現在の黄金山神社

MATCHAより

鮎川港シンボルクジラのマスコット

我が家の地震被害(地震当日)

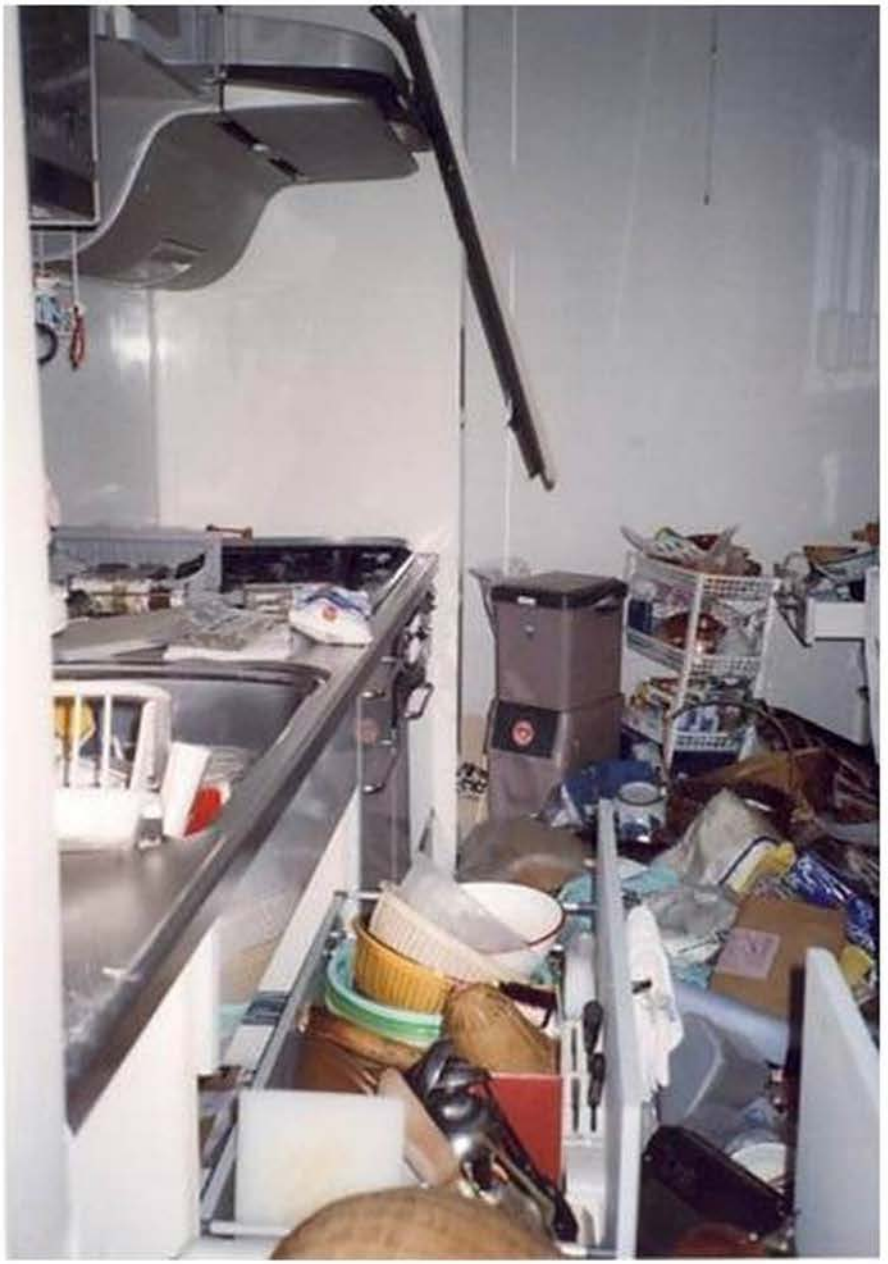


土台も破壊

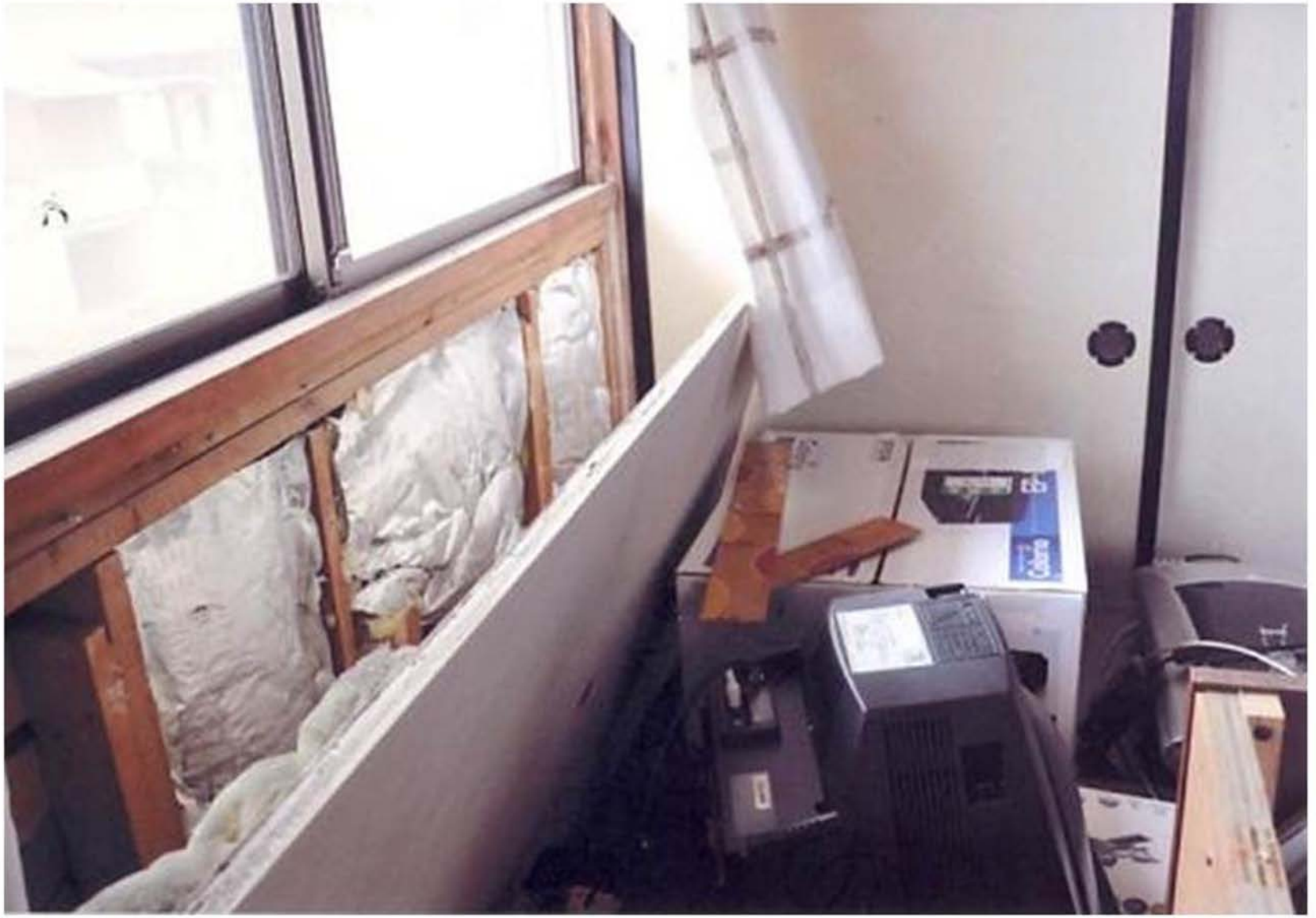
復旧工事

落下した瓦の山が3つ

室内



台　所



はがれた壁板

りんご
JA

復旧工事（5月18日～9月10日）

全壊に近い大規模半壊からの復旧工事開始

復旧工事中

室内工事

東日本大震災を通じて感じたこと

- 地震が来たら津波の用心
  - すぐに来なくても油断するな
- 生かされた命
- 家族と連絡が取れないつらさ
- **当たり前の日常のありがたさ**
  - ライフライン、水、ガソリン
  - 生活は電気に左右されている
- 地震保険
- 非常用備品の準備

金華山での経験から

・天からか大自然からかそれはわからない
　何か大きな存在に生かされたような気がした
　「人のために役立て！」と、ドンと背中を押された思いがした

・その後、被災地に足しげく出向いた

・被災地の人々は手を合わせる場がほしいと言う
　亡き身内や知人を悼み自分自身も癒される
　――そんな祈りの場が欲しいと切々と訴える

・被災地以外の人々も、犠牲になった人びとに
　祈りをささげに行きたいと言う

・遺族の方々の気持ちを受け入れて上げたい
　そんな願いにぜひ応えたい

四国88ヶ所遍路から

東日本大震災後の
2012年に小学4年生
の孫と大震災の
鎮魂と復興を祈念
してお遍路

東日本大震災の
犠牲者を追悼
しながら、
四国の人々に
震災を語った
四国の人々から
東日本大震災
犠牲者への祈りの
場を創って下さいと
励まされた

「みちのく巡礼」への思いの原点

これら経験から、震災犠牲者追悼の巡礼の道を東北にも創ろう――
これが自分に課せられた使命だと強く思った

財産、人生、歴史や文化まで全てを破壊し尽くした大地震と大津波
多くの人々に苦しみと不安を与え続ける放射能
大きな犠牲と苦難の体験から人々が学んだ貴重な教訓を
後世に伝えなければならない
今までの人生は、これをやり遂げるための
基礎造りだったように思えた
今までとは一味違った凛とした人生模様が、
この歳になって自分の背中に描き加えられたような気がする

東北6県に88ヶ所の巡礼路を創出する遠大なプロジェクトを始動させ、
「一般社団法人みちのく巡礼」を立上げる

活動経緯

2012年4月	祈りの場創設の依頼活動開始
2013年8月	みちのく巡礼創設実行委員会設立
2014年1月	一般社団法人みちのく巡礼設立
2014年9月	福島被災地を巡る巡礼バスツアー
2014年10月	巡礼地創設検討委員会設立 メンバー:理事10名、地区代表12名
2015年3月	防災講演会(東北大防災研究所 川島秀一教授)
2016年7月～	宮城県札所で巡礼者受け入れ開始
2016年9月～	宮城県各地巡礼バスツアー開始
2018年４月	ホームページ改訂版開設
2018年6月	札所紹介動画制作開始
2018年12月	みちのく巡礼宮城33ヶ所完成
2019年1月	岩手・福島札所創設開始
2019年10月	中尊寺、毛越寺協力寺院として参入
2020年	コロナ禍中の活動(加盟札所動画制作)

被災地応援バスツアー

「東日本大震災慰霊 福島の巡礼地をめぐる旅」実施報告

企　画・一般社団法人みちのく巡礼　　実施日・平成26年9月20日(土)～21日(日)

協賛・公益財団法人 公益法人協会　　後援・河北新報社

【ごあいさつ】

平成26年9月20日、21日の二日間にわたり、全国から39名の方々のご参加を得て、「東日本大震災慰霊　福島の巡礼地をめぐる旅」を実施いたしました。

地震、津波、放射能の三重の苦しみが続く福島の被災地を訪れ、参加していただいた方々にその現状をつぶさにご覧いただきました。参加者からは、「福島の現状が良く理解できた」、「放射能の影響で、人影のない街が印象に残った」など多くの感想をいただきました。また、訪問した寺院の御住職から震災にまつわる色々なお話をお聴きし、「大変充実した内容の濃い旅だった」との声をたくさんいただきました。

今回の企画で得た多くのことを全国に向け発信し、宗教や宗派を超えた、「人が本来持ち合わせている祈る心」を拠りどころにして、この震災の教訓を永く語り継ぐ仕組み作りを継続して参ります。

ツアーに参加いただきました皆さまと、企画実施にご協力いただきました関係者、関係機関、関係団体の皆様に心より御礼申し上げます。

一般社団法人みちのく巡礼　　理事長　櫻井史朗

[ツアースケジュール]

【1日目】9月20日(土)

仙台駅(東口)	8:00出発	
同慶寺・街中見学(南相馬市)	10:30	・同慶寺参拝 ・小高区町内見学
福聚寺(福島県三春町)	15:30	・玄侑宗久住職法話
いわき湯本温泉	17:30到着	・ホテル「新つた」に宿泊

【2日目】9月21日(日)

いわき湯本温泉	8:00出発	・ホテル「新つた」出発
波立寺(いわき市)	8:40	・猪川岱翼住職法話 ・寺院内見学
浜風商店街(いわき市)	10:20	・資料展示見学 ・津波映像説明
医王寺(福島市)	14:50	・橋本龍弘住職法話 ・寺院内見学
中浜小・千年の松	16:30	・徳本寺(宮城県山元町)早坂文明住職法話 ・中浜小見学
仙台駅(東口)	18:00頃着	

[1日目]

8:15 仙台駅東口を出発

[櫻井理事長　車中講演の様子]
震災時の命華山での命拾い、多くの同級生が津波の犠牲になったこと、自宅の大規模半壊などの被災体験を話していただきました。

[同慶寺(南相馬市)　相馬藩主の菩提寺]
福島第一原発から約17Kmに位置する同慶寺。見学・参拝に訪れた時は、ちょうど除染作業中でした。

[JR小高駅前から見た人影のない街中]
たくさんの通学用自転車が、発災当時のまま駐輪場に停めてある小高駅。人影のない駅前通りと住宅街を見て「言葉が出ない」との感想が聞かれました。

現在は被災東北三県に55寺を目標に活動

（現在コロナ禍で岩手･福島の加盟活動自粛中）

現時点宮城県33寺（含瑞巌寺）

福島県3寺

岩手県11寺　　計47寺が参加

他に協力寺院：中尊寺、毛越寺

河北新報
2018年
7月21日（土）
夕刊

杜の都のチャレンジ人

55寺院 祈りでつなぐ

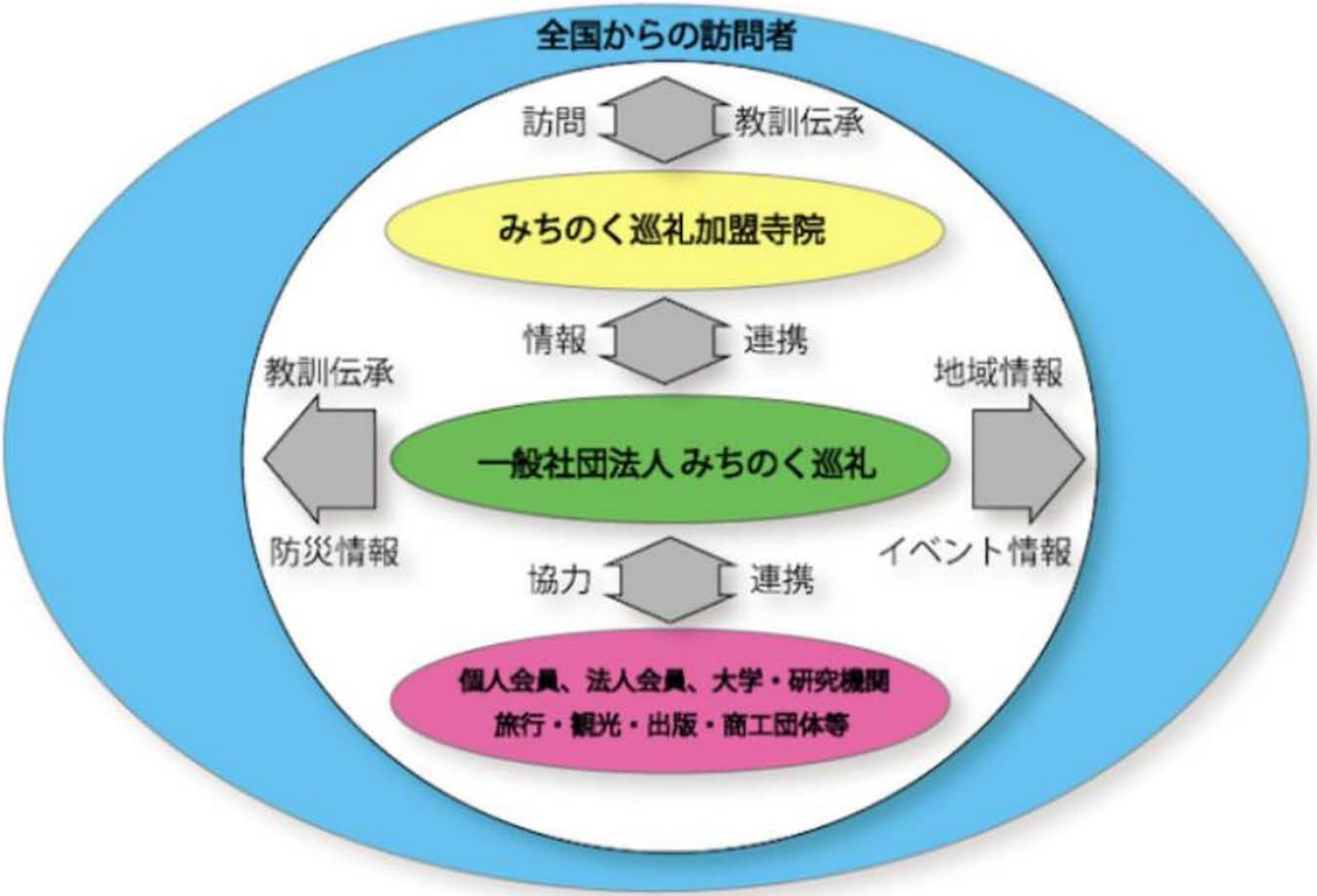
震災犠牲者慰霊の巡礼ルート整備に励む
桜井　史朗さん（74）

一般社団法人みちのく巡礼の理事長だ。東日本大震災の犠牲者を慰霊するため、四国遍路をモデルに岩手、宮城、福島県の寺院をつなぐ巡礼ルートの整備を目指している。「祈りで始めた活動だったが、共感の輪が広がっている」

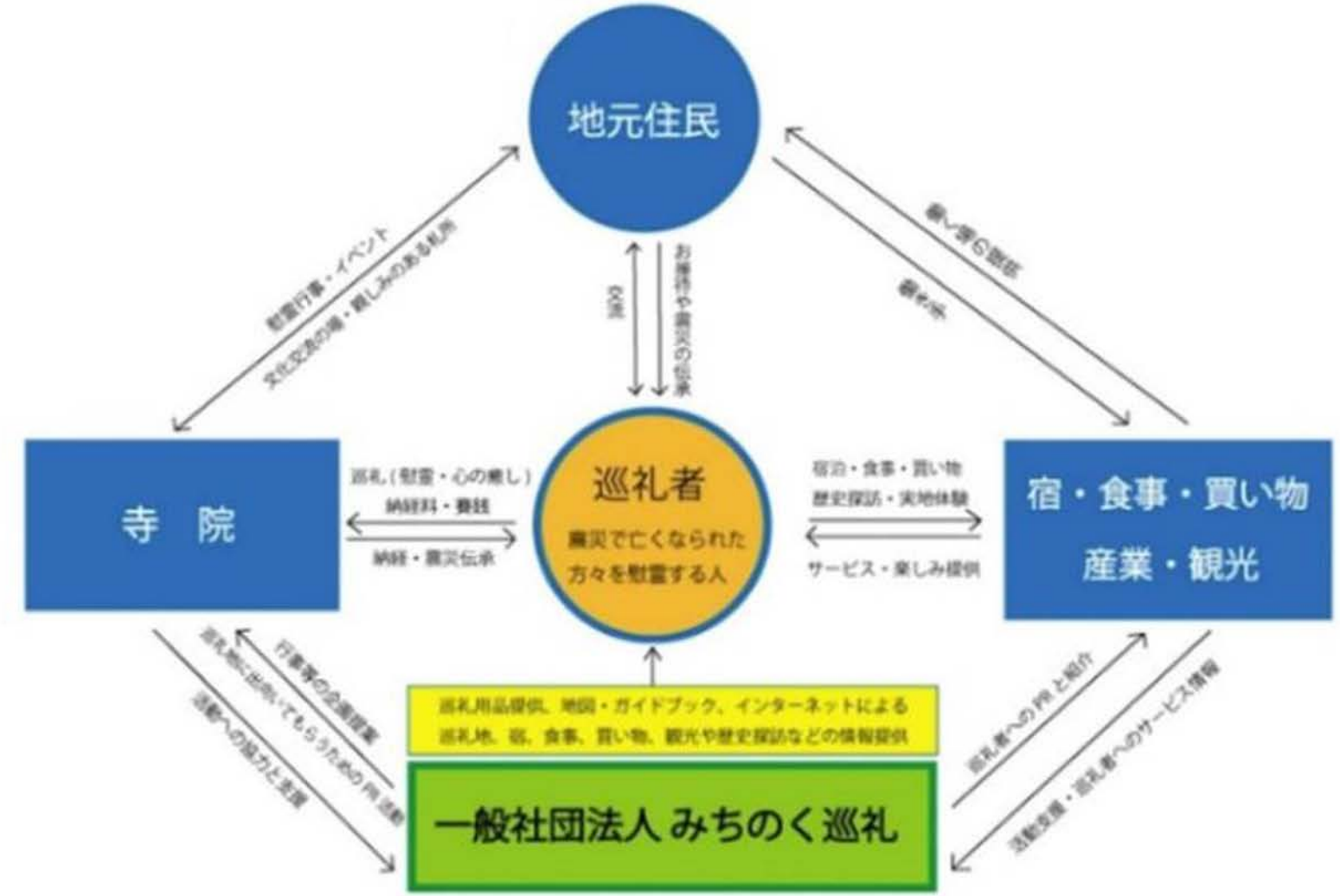
震災時に石巻市の金華山で被災し九死に一生を得たり、四国遍路をさ度結願したりした体験が、立ち上げの原動力となった。「津波が押し寄せ、高台へ避難する途中に崖崩れに遭うなど命からがら逃げた。生かされた命のありがたさを実感し、人の役に立ちたいと強く思った」と振り返る。

震災から4日後、石巻市鮎川浜で母親と幼子が花束を砂浜に手向け、微動だにしないで合掌する姿を目にした。「その時、思わず号泣し、震災犠牲者の遺族のために祈りの場をつくることに

23番目の札所である雲巌院を訪れた桜井さん＝仙台



みちのく巡礼活動全体イメージ



みちのく巡礼　将来イメージ

改めてなぜ巡礼か？

- 阪神淡路大震災後の四国巡礼
震災で犠牲になった妻、息子夫妻、孫2人の家族５人の慰霊遍路者に出会う。５人目の時は、慰霊よりも本人自身の癒しの場になっていたとのこと。

- 孫と鎮魂と復興を祈る四国巡礼
地域住民の接待、交流の場を改めて実感。四国モデルができれば地域の活性化が可能

- 祈りの場としての寺院に慰霊碑、伝承碑を管理してもらえれば、忘れ去られることがない。また、宗派を超えた多くの寺院の賛同で、いつでもどこでもその場を提供することができる。

会員構成

札所会員	みちのく巡礼札所寺院	33ヶ寺
正会員	企画、運営、活動に携わる会員（理事）	10名
一般会員	活動資金を年会費として継続支援する会員 ※希望する方は巡礼ツアーやイベントへの参加や自由な活動協力を歓迎いたします。 ※年会費は2000円を基準とする任意金額とします。	132名
法人会員	活動資金支援、または活動協力する団体	15団体
会員総数		191

会員募集

私たちの活動趣旨にご賛同いただける個人会員を募集しています

一般会員	活動支援金の提供、企画への参加、被災地の情報提供などに自由にご協力いただける方（年会費：2,000円）

※一般社団法人 みちのく巡礼の活動は、みなさまの支援金により支えられています。
　一般社団法人 みちのく巡礼は、特定の宗教・宗派に属する宗教団体等ではありません。

※会員になっていただいた方には、会報「未来への祈り」をお送りします。
　また、後援会やツアー企画などのイベント情報、巡礼地情報などもお知らせいたします。詳しくはお問い合わせください。

詳細は「みちのく巡礼」で検索を

ご清聴

ありがとう

ございました